

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要
2 学校教育目標 「元気いっぱい 笑顔いっぱい とともに学び合う 多良っ子の育成」を実現する。

3 本年度の重点目標
重点目標① 目指す子ども像の確かな実現
重点目標② 特別支援教育の充実
重点目標③ 特別活動の充実
重点目標④ 地域・保護者に開かれた学校づくり
重点目標⑤ 働きやすい職場環境づくり

4 重点取組内容・成果指標
(1)共通評価項目

Main evaluation table with columns: 評価項目, 取組内容, 成果指標(数値目標), 具体的取組, 中間評価(進捗度, 進捗状況と見通し), 最終評価(達成度, 実施結果), 学校関係者評価(評価, 意見や提言), 主な担当者

●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	これまでの教育活動を、その効果や教職員の負担を勘案して、精選する。 ・定時退勤日(毎週、金曜日)の設定と徹底を図る。 ・校務サーバーの教材フォルダに全学年の教材を集約・整理し、共有データの活用を図る。 ・校内研究のまとめの作成を年間を通じて行うことで、年度末の負担軽減を図る。 ・5Sを徹底し、効率的に働くことができる職場環境をつくる。	A	今年度も、時間外勤務時間の上限を7時までと設定し、定時退勤日を毎週金曜日と設定している。教頭・教務主任の呼びかけにより、概ね守られている。 ・校内研究は、年度当初に各個人による研究のまとめの様式・方法を提案することで、年間を通じた計画的なまとめの作成ができています。 ・事務職員が中心となり、事務室、備品庫などの整理整頓を行ったことにより、効率的に働く職場環境が確立されつつある。	A	・学期末など業務が集中する時期があること、保護者への連絡や面談を時間外に行わないといけないことなどがあるものの、時間外勤務時間や定時退勤日は概ね守られている。 ・教材フォルダの整備は現在、取組中である。 ・校務用PC立ち上げ時に「みんなの掲示板」を設定するようにして、職員連絡会等の時間短縮に努めている。 ・整理整頓については、今後も学校全体で取組を行っていく。	A	・教員の事務作業の大変さなどを実感している。教員を志望する学生が減っているという話も聞く。教員がしんどいと児童に向き合えることができるようにもっと保護者も協力すべきであると思う。	様式1(小・中)
	○職場における危機管理意識の向上	○教職員アンケートで「校務の内外を問わず、危機管理意識をもって行動しているか」について肯定的に回答した教職員の割合が10%以上であること。 ○年間を通して、教職員による交通加害事故などの信用失墜行為が0件であること。	・毎月末に「ゼロの日」を設定し、自らの職務を見直し、自己チェックを行うなどして、危機管理意識の維持・向上を図る。 ・危機管理ファイルを活用して、日常的に薄くも、注意喚起を行う。 ・管理職による講話、「校長便り」等で危機管理の具体について伝えるなどして意識化を図る。 ・より実効性が高い研修を実施する。	A	・教職員アンケートは100%であり、4月から教職員による事故も0件である。 ・毎月末に、自分の自動車運転や振替の振り直しを行うことで、交通事故や指導のやり方等、教職員としての危機管理意識が維持・向上に努めている。 ・夏季休業中の研修については、西部教育事務所に依頼して実施した。	A	・教職員アンケートは100%である。1月に職員の交通事故(被害)が1件あった。被害事故もできるだけ回避できるように、再度、注意を促した。職員会議や職員連絡会等で「特別支援の配慮を心掛けているか」についての具体的な指導を行い、「教職員の服務規律の保持」の全教職員による読み合わせを行うなどして、常に意識を高めるようにしている。	A	特になし	校長 教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の特別支援教育に対する専門性と意識の向上	○教職員アンケートにおいて、「特別支援教育に関する専門性が向上したか」について肯定的に回答した教職員の割合が90%以上であること。 ○特別支援教育の充実に対する意識の向上について肯定的に回答した教職員の割合が90%以上であること。	・特別支援教育に関する研修会を2回実施し、通常学級での対応に役立つ内容を取り上げる。長期休業中に講話・演習を組み込んだ研修を、2学期以降に実施し、3学期に検証する。 ・ケース会議を開催し、関係教職員での情報共有を密にする。	B	・夏季休業中に講話と演習を組み合わせた特別支援教育に関する研修会を実施した。個々の教員が通常学級での対応に役立つ内容を取り上げる。自立活動の充実を図る実証的取組を行っている必要がある。 ・第3学年通常学級の児童の集中力不足による学習不振を改善するため、通常学級の漢字指導に関わっている。漢字指導を通して、他の学習や日常生活においてもよい効果が表れるようにしたい。	A	・教職員アンケートにおいて、「特別支援教育に関する専門性が向上したか」について肯定的に回答した教職員の割合が100%である。1月に職員による交通事故(被害)が1件あった。被害事故もできるだけ回避できるように、再度、注意を促した。職員会議や職員連絡会等で「特別支援の配慮を心掛けているか」についての具体的な指導を行い、「教職員の服務規律の保持」の全教職員による読み合わせを行うなどして、常に意識を高めるようにしている。	A	特になし	太田(特別支援教育コーディネーター・アドバイザー) 全学級担任 坂口、松尾、野中
	○特別支援学級を中心とした特別支援教育の充実	○担当する教職員の見取りで、対象児童が落ち着いた学校生活を送ることができていることを複数の職員で確認できる。 ○担当する教職員の見取りで、対象児童の集中できている時間の伸びが確認できる。 ○担当する教員の見取りで、学級の中で授業に集中できる児童が増えていることが確認できる。	・個々の児童の状況に応じて、発達障害もしくはその傾向が認められる児童の学習に対する集中力を高め、学習効果を高める取組を行う。 ・特別支援学級児童への効果的な支援と自立活動の充実を図る。 ・通常学級の児童の不注意による学習不振を改善するため、通常学級の漢字指導に関わる。	A	・特別支援学級に所属する児童への効果的な支援を日々実践している。特に1年生に対しては大きい効果を出している。自立活動の内容を充実させる必要がある。 ・第3学年通常学級の児童の集中力不足による学習不振を改善するため、通常学級の漢字指導に関わっている。漢字指導を通して、他の学習や日常生活においてもよい効果が表れるようにしたい。	A	・特別支援学級に所属する児童が、落ち着いた学校生活を送るようになった。特に1、2、3年生に対しては大きい効果を出している。通常学級の漢字指導の充実を図る実証的取組を行っている必要がある。 ・第3学年通常学級の児童の集中力不足による学習不振を改善するため、通常学級の漢字指導に関わっている。漢字指導を通して、他の学習や日常生活においてもよい効果が表れ出した。	A	・授業参観などを通して、とてもいい指導を行っていることが分かります。学力向上や不登校の未然防止などの礎として特別支援教育の充実は大切であると思うので、引き続き頑張してほしい。	太田、小野原、武富 坂口、松尾、野中
○特別活動の充実	○各学級における学級活動(話し合い活動・実践・体験活動)の充実	○学級会(話し合い活動)を代表委員会への話し合いを含めて下学年は6回、上学年は8回以上行う。 ○児童アンケートで「学級会に参画して参加したか」について肯定的に回答した児童の割合が80%以上であること。	・学校全体で、学級会の進め方、学級会グッズ等を活用して、会の流れを統一し、共通実践を行う。 ・各クラスで学級会コーナーを設け、学級会の実践を視覚的に振り返ったり、共有しあったりできるようにする。 ・教師間で議題や取り組みの工夫などを共有する機会を設け、学級活動の内容の充実を図る。(年に2回程度)	A	・学級会グッズを配付し、会の流れを統一するなどの共通実践を行ったことで、児童が自主的に学級会活動に取り組むことができています。 ・学級会コーナーでは、話し合った内容を掲示し、話し合いを振り返ることができています。 ・教師間で前期の取組のアンケート形式で共有し、2学期以降の取組に生かせるようにしています。	A	・児童アンケートで「学級会に参画して参加したか」について肯定的に回答した児童の割合は、約90%であった。昨年度の85%から5ポイント上がり、学級会へ積極的に参加している児童の割合が増えている。 ・教師間で1年間を取り組んだ議題や取組の工夫について共有し、来年度の学級会の質の向上につなげた。	A	・子ども主体の活動を大切にしていると思う。	樋口 (学級活動) 全学級担任
	○児童会の委員会活動の活性化	○児童の年間振り返りカードの自己評価で「よくできた」(◎)と評価した児童の割合が80%以上であること。	・振り返りカードを用いて、振り返り活動(自己評価)を充実させる。振り返りカードの内容が分かるようにする。 ・全児童に学期ごとに委員会へのメッセージを書いてもらい、掲示することで活動に対する正のフィードバックを行う。	A	・児童は毎月の活動や前月の振り返りを生かして活動することができている。 ・振り返りへのコメントの記入を担当の先生方に呼びかける。 ・全校児童から委員会への感謝のメッセージを校内に掲示することができた。 ・2月に同様のメッセージカードの取組を行い、1年間の労を労う予定である。	A	・各委員会は、毎月の振り返りを生かして児童会目標の達成に向けて工夫した活動に取り組むことができた。アンケートでは98%の児童が「よくできた」「できた」と答えた。(4段階で3.63) ・全児童から委員会への感謝のメッセージを年間2回掲示し、また、児童総会で紹介した。委員会活動への意欲の喚起につなげることができた。	A	特になし	樋口(委員会活動) 大石(児童会活動)
○地域・保護者に開かれた学校づくり	○学校によさや取組の発信	○平均、週に3回以上の学校ホームページのお知らせ、イベント・ニュース等の更新を行う。 ○年間を通して、50号以上の学校便りを発行する。 ○各ページの閲覧件数を平均100件以上にする。	・学校ホームページを通して、適時に学校の情報を発信する。 ・学校便りを発行し、学校の取組、児童の頑張りを家庭・保護者に伝える。 ・学校の安心メールから学校HPへのリンクを設定し、特に必要な情報については学校HP閲覧に結び付けるようにする。	A	・イベントギャラリーの更新回数112回(週平均4回)、学校便りは26号を発行している。(11月20日現在)学校の教育活動を家庭・保護者に発信することができています。学校HPの認知度もいっしょに上がり、閲覧数も全体的に前年度を上回っている。 ・安心メールからのリンクはまだ実施していない。	A	・イベントギャラリーの更新回数182回(週平均4.6回)、学校便りは37号を発行している。(2月24日現在)学校の教育活動を家庭・保護者に発信することができています。学校HPの認知度もいっしょに上がり、閲覧数も前年度を上回っているが、閲覧件数平均100件以上は達成できていない。	A	・学校のことがよく分かるのでとてもよいと思う。これからは保護者や地域への情報発信に努めてほしい。	校長 教頭

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育									
5 総合評価・次年度への展望	・今年度も全項目でほぼ目標を達成することができたと考えているが、個々に見ていくと今後の質的な改善を図る余地がある項目も見受けられるので、次年度はさらなる向上を目指したいと考えている。 ・次年度も、目指す方向性は大きく変えることなく、児童の自己有用感を高め、着実な学力向上を図ることで、児童にとっての「楽しい学校」を目指していきたいと考えている。								